

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2021年6月分)

2021年7月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[ムラディッチ被告に対する確定判決の言い渡し\(8日\)](#)

●[SDA、選挙法改正をめぐるHDZとの交渉を打ち切り\(17日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア. ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

イ. スルプスカ共和国(RS)

●[RS政府、BHの将来問題をめぐりBH連邦側に交渉開始を呼びかけ\(21日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[PIC・SB政務局長会合の開催\(1～2日\)](#)

●[BH情勢に関する国連安保理会合の開催\(29日\)](#)

(2) 二国間関係

●[BH要人、モンテネグロ議会によるスレブレニツァ関連決議に対して反応\(17日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[伊藤大使のコニツ市訪問\(11日\)](#)

●[伊藤大使のテスリッチ市におけるオリンピック・デー・イベント出席\(23日\)](#)

3. 経済

(1) 経済政策・公共事業

●[閣僚評議会、2021～2023年のBH経済予測に関する報告書を採択\(12日\)](#)

●[IMF、特別引出権\(SDR\)に基づきBHに3億ユーロを配分の見通し\(13日\)](#)

(注:この月報は、当地紙報道などの公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●新型コロナ感染状況(1～30日)

6月の国内新規感染者総数は860人で、感染状況は先月から引き続き改善傾向にある。また、国内各自治体では引き続き、高齢者を始めとする優先接種対象者に対するワクチン接種が行われている。

●ムラディッチ被告に対する確定判決の言い渡し(8日)

旧ユーゴ国際刑事裁判所(ICTY)の後継にあたる国際刑事法廷残余メカニズム(IRMCT)は、紛争中の戦争犯罪をめぐり、ムラディッチ被告(元RS軍司令官)に対して一審判決を維持する終身刑の確定判決を言い渡した。ボシュニャク系要人及び米・EUは判決を歓迎、一方でドディック大統領評議会議長(セルビア系)は、特定の民族を狙い撃ちにした国際司法の判断に正義はないなどとして、判決への不満を述べた。

●SDA、選挙法改正をめぐりHDZとの交渉を打ち切り(17日)

イゼトベゴビッチSDA(ボシュニャク系与党第一党)党首は、チョービッチHDZ(クロアチア系与党)党首に書簡を送付し、選挙法改正問題をめぐり昨年9月から行われているSDAとHDZの二党間交渉を打ち切るとともに、議会各党を含む包括交渉への移行を提案した。同問題をめぐっては、現在、BH議会が主導し与野党議員などで構成される横断作業部会も議論を行っている。

(2) エンティティ、特別区

ア. ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●サラエボ市とバニャ・ルカ市の両市長、25年ぶりの会談(22日)

カリッチ・サラエボ市長(国政野党社会民主党副党首)はRSのバニャ・ルカ市を訪問し、スタニブコビッチ市長(国政野党民主進歩党所属)と会談を実施。両市市長会談は1996年以来25年ぶり。

イ. スルプスカ共和国(RS)

●RS要人のセルビア訪問(2日)

PIC・SBによるシュミット新上級代表任命を受け、ドディック大統領評議会議長を始めRS与野党の代表がセルビアを訪問し、ブチッチ同国大統領等と会談を行った。RS側要人がシュミット新上級代表任命に正当性がない旨主張したのに対して、ブチッチ大統領はこれに理解を示し、シュミット新上級代表と話し合う意向がある旨を述べる一方で、RS側に対して冷静な対応を要請した。

●RS政府主導の専門家委員会、スレブレニツァに関する報告書を報告(11日)

RS政府主導の各国専門家による特別委員会は、先のBH紛争時のスレブレニツァ地域における紛争被害に関する報告書を政府に報告し、この中で、1995年7月にスレブレニツァにおいてジェノサイドは発生しなかったとする見解を提示した。なお、国際司法裁判所(ICJ)は2008年、スレブレニツァにおいてジェノサイドが行われたとする判断を示しており、当国の一部では、今次報告はRS政府による歴史修正主義的試みと見なされている。

●RS政府、BHの将来問題をめぐりBH連邦側に交渉開始を呼びかけ(21日)

ツビヤノビッチRS大統領(セルビア系与党

第一党SNSD所属)は、BHの将来問題につき両エンティティ間の交渉を行うなどとした5月のRS国民議会決議に基づき、RS政府の交渉チームを組織するとともに、BH連邦に対して交渉開始を提案。これに対して、ボシュニャク系各党が提案を拒絶する立場を示す一方で、チャバラBH連邦大統領を始めとするクロアチア系与党のHDZは、交渉に前向きな姿勢を示している。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●PIC・SB政務局長会合の開催(1～2日)

PIC・SBは政務局長会合を開催し、 Dayton 和平合意の履行状況及びBH情勢につき協議した。会合後、PIC・SBは共同コミュニケを発表し、その中で、BHに対してOHR閉鎖の条件である「5+2」アジェンダの早期履行を改めて要請。また、7月末に任期を終えるインツコ現上級代表の在任中の活動を高く評価するとともに、シュミット新上級代表の任命を歓迎した。なお、ロシアは同コミュニケに参加しなかった。

●欧州評議会、BHに改革加速化を要請する決議を採択(10日)

欧州評議会は、「その他の民族」の被選挙権保障をBHに命じた欧州人権裁判所によるセイディッチ・フィンチ事件判決(2009年)の履行を始め、欧州人権規約に則したBH憲法および選挙法の改正を本年9月1日までに完了することをBHに要請する決議を採択した。国政選挙を来年秋に控える中、最近、欧米諸国はBHに対して、早期の選挙関連法改正実現の要請を強めている。

●BH要人のSEECF会合出席(17日)

大統領評議会3メンバーおよびトルコビッチ副首相兼外相(SDA所属)は、トルコ・アンタルヤで開催された南東欧協カプロセス(SEECP)会合に出席した。

●BH情勢に関する国連安保理会合の開催(29日)

国連安保理においてBH情勢に関する議論が行われ、トルコビッチ副首相兼外相が出席した。会合では5月末のPIC・SBによるシュミット新上級代表任命についても議論され、欧米各国が任命決定を歓迎したのに対して、露はこれを認めない姿勢を改めて主張した。トルコビッチ外相は、「5+2」アジェンダ履行に向けたOHRの重要性を強調するとともに、新上級代表に対するPIC・SB各国の支援を要請した。

●ボシュニャク系要人、IRMCTによるスタニシッチ・シマトビッチ判決を歓迎(30日)

IRMCTは、先の紛争時にBH北部のボサンスキ・シャマツ(現シャマツ)で発生したボシュニャク系住民などに対する戦争犯罪をめぐり、当時セルビア内務省特殊部隊の司令官であったスタニシッチおよびシマトビッチの両被告に対して、それぞれ禁固12年の一審有罪判決を言い渡した。同判決につき、ジャフェロビッチ大統領評議会ボシュニャク系メンバーは、当時のセルビア政府の戦争犯罪への関与を認定するものであるとして、その意義を強調した。

(2) 二国間関係

●BH・トルコ首脳会談(17日)

大統領評議会3メンバーは、トルコで開催されたSEECF会合のマージンにおいて、エルドアン同国大統領と会談を行った。両国首脳は新型コロナ対応につき話し合ったほか、両国間貿易、およびサラエボ・ベオグラード間高速道路建設を始めとするインフラ整備などでも協力関係を強化していく方針を確認した。

●BH要人、モンテネグロ議会によるスレブレニツァ関連決議に対して反応(17日)

モンテネグロ議会が、スレブレニツァ・ジェノサイドを非難するとともに、その事実否定禁止の法制化を目指す旨の決議を採択したことを受け、国内のボシュニャク系要人は同決議を歓迎するとともに、BH議会に対してもジェノサイドの事実否定禁止の法制化の早期実現を要請。一方で、ドディック大統領評議会議長等RS要人は、モンテネグロ議会による今次決議はセルビア民族との対立姿勢を示すものだと述べ、牽制した。

(3)日・BH関係

●伊藤大使のコニツ市訪問(11日)

伊藤駐BH日本国大使はBH中部のコニツ市を訪問し、日本の自動車・鉄道用精密機械メーカーであるツバキ・ナカシマ社の同市工場を視察したほか、チャティツ市長と懇談した。またこれに続いて、コニツ市市庁舎にて行われた「コニツ市診療所救急車整備計画」の引渡式に出席した。日本政府は、年間の救急車利用患者が約1,000人にのぼる同市診療所に対して、救急車1台分の資金供与を実施している。



(写真:救急車の引渡式典の様子)

●伊藤大使のテスリッチ市におけるオリンピック・デー・イベント出席(23日)

伊藤駐BH日本国大使は、当地オリンピック委員会がBH北部テスリッチ市にて開催したオリンピック・デー・イベントに出席した。伊藤大使は、今夏の東京オリンピック・パラリンピックにおいて、同市出身のジェカノビッチ選手(射撃)をはじめとするBH代表の活躍と好成績を願う旨伝えた。



(記念撮影などの際のみマスクを外して撮影しました。)

3. 経済

(1)経済政策・公共事業

●閣僚評議会、2021～2023年のBH経済予測に関する報告書を採択(12日)

閣僚評議会(中央政府)は、2021～2023年のBH経済予測に関する政府直轄の経済計画局(DEP)による報告書を採択。それによ

れば、同期間のBH経済のGDP成長率予測は年率3%。一方で、BH経済の成長は、国外市場および国内需要の動向に加え、今後の新型コロナ感染状況に依るところが大きいと予測されている。

●IMF、特別引出権(SDR)に基づきBHに3億ユーロを配分の見通し(13日)

ジュウェル当地IMF事務所長は、世界・各国経済に対する新型コロナ感染拡大の影響緩和などを目的に、IMFが決定した特別引出権(SDR)の発動に基づき、IMFからBHに対し、本年8月を目処に3億ユーロが配分される見通しである旨発表した。

(2) 経済協力(新型コロナウイルス対策支援を含む)

●クロアチア政府、BHにアストラゼネカ製ワクチン3万回分の供与方針を発表(8日)

クロアチア政府は、BHに対してアストラゼネカ製の新型コロナウイルス・ワクチン3万回分を供与する方針を発表した。

●EU、BHにファイザー製ワクチン5,800回分などを供与(19日)

EUは、BH連邦域内の複数医療機関に対して、ファイザー製ワクチン5,800回分および総額5万KM(約2万5,000ユーロ)相当の医療機器支援を実施した。